

第2回協議会における御意見の最終案への反映状況について

資料4

1 指標全般

		主な意見	最終案への反映状況
1	指標の取扱いについて	<p>○本指標のあり方については、文科省告示「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」および平成29年3月31日の文科省通知「教育公務員等の一部を改正する法律等の施行について（通知）」に記載がある以下の点などについて全体の場で確認もしくは指標の前文等に記載する必要があると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員等の多忙化に配慮。 ・指標は、画一的な教員像を求めるものではないこと。 ・各教員の長所や個性の伸長を図るものとする。 ・指標は、人事評価と趣旨・目的が異なるものであること。 ・すべての課題を教員等が一人で解決することは困難であること。 <p>また、それぞれの専門的な知識および技能を活用しつつ、チームとして連携・協働すること。</p> <p>指標の取扱いについては、現行と同様、これらの考え方から逸脱するものになってはならないと考える。</p>	<p>○指標の取扱いについては、現行の指標と同様の考え方です。</p> <p>指標策定時に確認させていただいたとおり、指標は、教員等の資質の向上を目的として、職責、経験、年教等に応じて、身に付ける資質能力を示しています。</p> <p>一方で、人事評価は、教員等がその職務を遂行するにあたりこれまで発揮した能力を見る観点から行われるものであり、両者はその目的も趣旨も異なるものであり、この指標を人事評価に用いることはありません。</p>
2	ライフステージに応じた資質能力について	<p>○【教員第3・4】「他の教職員が抱える課題に適切な指導・助言を行うことができる」という文言が、(現状のものも)多くの項目で書かれており、求める資質に重なりが生じていると先生方に受け止められているのではないかと感じる。</p>	<p>○【教員第3・4】項目(縦軸)ごとに教職員が抱える課題に対して適切に指導・助言することができるよう明記しています。全体を見直して修正しました。</p>
3	指標の活用について	<p>○指標を三重県の教職員一人ひとりにどのように伝え、意識させる(浸透させる)のかについて、考えていく必要があるのではないかと。</p> <p>○教員各自が自分の立ち位置を確認する方法はあるのか。</p>	<p>○指標に基づき教員自らが到達目標を確認しながら学び続けることができるよう、活用方法を検討します。</p> <p>○県教育委員会が実施する全ての研修において、指標を提示し、教職員一人ひとりがライフステージや身に付けるべき資質能力について確認をしています。</p>

2 教員としての資質の向上に関する指標

		主な意見	最終案への反映について
1	倫理観 コンプライアンス	<p>○【教員全】「コンプライアンスを自分事として捉えることができる」という文章表現は、表現として指標になじまないと感じる。現行のままか、「コンプライアンスを徹底している」という文言にしてはどうか。</p> <p>○【教員全】「コンプライアンス=法令や規則をよく守ること」であって服務規律つまり遵守すべき義務やルールが示されて理解し重要性を認識していることがベースとならないか。服務規律の文言は不要ではないか。</p>	<p>○【教員1~4】項目を3つに分けました。</p> <p>○重複した意味になっている部分があったため、「コンプライアンス」の文言を削除しました。</p> <p>○「自分事として捉える」という文言については、一人ひとりの意識を高めるためにも追記したい言葉です。「不祥事を自分事として捉え」と修正しました。</p>
2	社会性 コミュニケーション力	<p>○【教員第1・2】人権意識を持つこと、児童生徒や保護者、地域との信頼関係を構築すること、他の教職員の思いを受け止めることが明記されている。</p> <p>○【教員全】コミュニケーション力は校内だけ、組織だけでよいのか。児童生徒・保護者・地域社会など多様な相手に発揮すべき力ではないか。</p>	<p>○【教員1・2】「他の教職員の思い」と修正したことによって、限定的な意味合いになるため、現行どおり「相手の思い」に修正しました。</p>
3	学び続ける意欲 探究心	<p>○【教員全】「学校」を取り巻く環境変化という表現で、子どもや教育をはじめ、どこまでをカバーする表現となっているのか。</p>	<p>○【教員全】「学校」とは、「学校教育」を指しているため、文言を修正しました。</p>
4	授業計画 授業実践 授業改善	<p>○【教員全】「ICT活用」または「ICTを活用した」という表現を「ICTをはじめとする多様な教材・教具を活用した」という文言に書き換えることを求めたい。ICTは広く見れば多様化する教材・教具の一つであり、この手法のみに特化した記述は望ましくないと考える。</p> <p>○ICTを活用するのが目的ではないので、「ICTを効果的に活用し、児童生徒の発達段階や習熟の程度に応じた授業」とするのはどうか。</p> <p>○【教員全】前回会議で意見が多くあったICTや情報リテラシー関連について意識的に多く反映した印象がある。一方で、複数項目にこの視点を追記しても、一人に対して求める資質の教や質が上がるわけではないので書き込みすぎない意識も持ち、項目が異なるのに求める資質が同じとならないよう、確認することが必要だと考える。</p> <p>○【教員全】授業計画と授業改善の両項目にICTを加筆したことにより、求める資質が類似したものとなっていないか。両項目・ステージ毎にレベルに合致しているか。</p> <p>○【教員第3・4】授業改善：指導教諭 ここまでICTを明記すべきか。</p>	<p>○【教員全】ICTをはじめ様々な教材・教具を活用した授業実践を行うことが必要であると考える、「ICT等」と文言修正をしました。</p>
5	学級運営 学校運営への参画	<p>○【教員第1】「計画的に職務を遂行」が削除されている。どのステージの教員が遂行するのか。</p> <p>○【教員第3】「指導」が削除されている。学校運営に対しては、第3ステージ教員は指導的立場でないのか。</p>	<p>○「計画的に職務を遂行」することについては、【教員第1】でつけたい力であるため、文言を修正しました。</p> <p>○【教員第3】指導的立場であると考えられるため、現行の内容に修正しました。</p>
6	危機管理	<p>○【教員第1】「一人で抱え込まず」とあるが、それ以下の文章で言い表している。あえて強調する必要性があるのか。</p> <p>○【教員第3・4】「感染症や災害等の」とあるが、この文言を入れることでその他の安全配慮意識(犯罪など)が薄くならないか。</p> <p>○【教員第4】「感染症や災害等の未然防止のため」という表現は、感染症や自然災害等自体を未然防止するように読めるので、「感染症や災害等の危機を未然防止するため」という文言にするほうが適切だと考える。</p>	<p>○【教員第1】「一人で抱え込まず」については、それ以下の「同僚や管理職に相談し…」以降と同趣旨であるため、削除しました。</p> <p>○【教員第4】「感染症や災害等」という文言を追加したことで、限定的な内容に捉えられる可能性があるため削除しました。</p>

		主な意見	最終案への反映について
7	チームワーク 人材育成	<p>○【教員第2】「心理的安全性」という表現は、ライフステージの系統で見ても、このステージにのみ使われている表現であり、具体的な姿を想起しにくいと考えるため、表現の再考を求めたい。</p> <p>○【教員第2】「課題共有できる環境づくりに努め」は不要か。</p> <p>○【教員第3・4】主幹教諭の「教頭業務の一定部分を担い」の文言については、主幹教諭の選考における実施要綱にすでに「担当職務」として明記されていることであるので、現行同様にあらためて指標に記載することは不要と考える。</p> <p>○【教員第3・4】指導教諭の「授業公開や研究授業などにおいて」の文言は、学校として授業公開・研究授業をより積極的にを行うようにとの意図があるのか。</p>	<p>○【教員第2】組織の中で自分の考えや気持ちを誰に対しても安心して発言できる状態である「心理的安全性」は、第2ステージだけでなく、他のステージにおいても必要となると考えます。しかし、指標としては、具体的な姿が想起しにくい言葉であるため「課題を共有し」と修正し、再考しました。</p> <p>○【教員第3・4】主幹教諭の項目を再考し、現行どおりとしました。</p> <p>○前段に「自校を中心に」とあるように、各校での授業公開や研究授業が行われる際に、指導教諭として指導・助言を行うことができるようにと考えます。</p>
8	ワーク・ライフ・バランス	<p>○【教員第3・4】「地域や関係機関等と連携」とあるが、この項目における具体的な連携は、どのようなこと(姿)を想定しているのかわかりにくい。業務改善と職員の心身の健康に資するための対外的な説明を含めた連携をおこなうのは、第一義的には管理・経営側がおこなうことと考えるが、それらを職員の業務として位置づけることを想定しているのであれば適切ではないと考える。</p>	<p>○項目の内容に合致しないため、「地域や関係機関等と連携」の文言は削除しました。</p>
9	情報教育	<p>○【教員全】各ステージにおいて、昨今の情報化社会における多様性にとんだ教育現場の情勢に対応しうる改定内容となっている。情報リテラシーの部分においても不足なく示されており、良いと考える。</p> <p>○【教員第2】デジタル・シティズンシップという概念がきちんと反映されており、テクノロジーに関する倫理的・文化的・社会的問題を理解し、責任を持って、かつポジティブにそれを利用するための規範となる教師としての社会的役割が明記されている。</p>	<p>○第1回協議会でいただいた御意見からデジタル・シティズンシップの概念を取り入れて修正しました。</p>
10	いじめに関する事項	<p>○県立学校でのいじめの対応が課題になっているので、この項目について加筆・修正が必要と感じる。</p> <p>○【教員第1・2】「・・・早期解決に向けて、管理職の指示のもと、他の教員と連携・協働・・・」としてはどうか。(いじめ問題の解決のためには管理職に報告し、その指示に従って組織で対応することが必要。)</p> <p>○【教員全】早期把握に、児童生徒のサインや行動しか書かれていないが、どの学校でもアンケートを必ず行っているなのでその記入も必要ではないか。</p> <p>○【教員第3】「他の教職員に適切な指導・助言をしながら」とあるが、10年もかかっているのは遅いのではないか。(いじめの件数も年々増加していると思う)</p>	<p>○【教員第1・2】「管理職の指示のもと」の文言を追加しました。</p> <p>○【教員全】アンケート調査や面談を実施することも含めて、日常的な児童生徒のサインや行動から変化を察知し、対応することを表しているため、修正していません。</p> <p>○【教員第3】指標全体を通して、第1、2ステージは、自身の実践力を高めることを目的としており、若手教員を始め、他の教職員に対する指導力については、第3ステージ以上の教員に求めています。</p>
11	不登校に関する事項	<p>○【教員第1・2】他の教職員のみでなく、関係機関との連携も加えた方が良い。</p> <p>○【教員1～4】「不登校の改善・解消に向け」という文言を「不登校に関する課題の改善・解消に向け」という文言に書き換えてはどうか。取り方によっては、「不登校という事象がなくなることだけに着眼している」ようにとらえられかねない。不登校を選択せざるをえない子どもたちに寄りそった表現とするためにも、上記文言に変えることを提案する。</p>	<p>○【教員第1・2】第1、2ステージでは、保護者や他の教職員と連携・協力する力を育成したいと思います。関係機関については、第3・4ステージの教員がつなぎ役となり連携を図ります。</p> <p>○【教員1～4】「不登校の改善・解消に向け」という文言を削除し、「不登校支援」としました。また、項目を3つに分けました。</p>
12	防災に関する事項	<p>○【教員全】「学校における防災の手引き」(2016)に「防災の日常化」の早期実現が掲げられ、その目指す姿①「防災意識が日頃の行動に結びついている」については、まさに理想的な姿の一つであると考えますが、その域に達することは当然平易なものではない。本指標案に「日頃の行動に結びつけられるよう」という文言がそのまま使われているが、一足飛びな印象を受ける。「実践力・行動力を高めていくとともに日頃の行動を見つめなおすことのできるよう」という表現にしてはどうか。</p> <p>○【教員第3・4】「自然災害に対応する力」とあるが、東南海地震や豪雨災害を意識したものだと思うが自然災害だけではなく広く災害(火事など)に対応する力の方が良いのではないか。</p> <p>○【教員第1～4】減災は必要ないか。</p>	<p>○【教員全】最終的には、「日頃の行動に結び付ける」ことができるように指導していくことが必要だと考えます。</p> <p>○【教員第3・4】「三重県の地理的特性を理解し、」とあるように、ここでは自然災害を意識した指導を指しています。火事等については、危機管理に含まれると考えます。</p> <p>○【教員1～4】「減災」という文言を追加しました。</p>

3 教頭・准校長及び校長としての資質の向上に関する指標

主な意見		最終案への反映について	
1	倫理観 コンプライアンス	○「教育公務員としての高い倫理観を持ち」の文言は必要ないか。	○「高い倫理観を持ち」の文言があるため、修正はしませんでした。
2	学校経営	○【教頭・准校長】と【校長】の並びを検討する必要があるのではないか。 ○教育委員会との連携について明示的な表現が無いように見受けられる。教育委員会との連携について記述があっても良いのではないか。	○【教頭・准校長】の内容が【校長】の役割とも読み取れるため再考しました。 ○教育委員会との連携については、「家庭・地域社会・関係機関との連携と協働」に含まれていると考えます。
3	ワーク・ライフ・バランス	○【校長】学校における働き方改革をより一層すすめていくため、「業務の改善や働き方の見直しを率先して行うことができる」という文言を「業務の改善や働き方の見直しを責任をもって推進することができる」と修正することを求めたい。	○【校長】校長自らが「業務の改善や働き方の見直し」を率先して行うことがワーク・ライフ・バランスの推進につながると考えます。
4	グローバル教育・郷土教育	○「ダイバーシティ社会の構築をめざす教育活動」の文章表現でよいか。	○「ダイバーシティ社会の構築」の文言を削除し、現行の内容に修正しました。
5	キャリア教育	○【教頭・准校長】と【校長】が同文となっている。	○【校長】は現行の内容に修正しました。
6	情報教育	○【校長】教職員全員がデジタル・シティズンシップ（情報モラル含む）の視点を持ちつつ専門性を高めて取り組む体制を構築することができる。という項目が明記されており、これにより校長としての情報リテラシーにおける役割がきちんと機能することが期待出来て、素晴らしいと思う。	○第1回協議会でいただいた御意見から情報リテラシー、デジタル・シティズンシップの概念を取り入れて修正しました。
7	いじめに関する事項	○【教員】と同様に修正が必要ではないか。	○【教頭・准校長及び校長】「学校いじめ防止基本方針に基づき（策定し）」にある「学校いじめ防止基本方針」に早期把握、解決に向けた取組について明記されているため、修正は不要と考えます。

4 養護教諭、栄養教諭に必要な事項

主な意見		最終案への反映について	
1	【養護教諭】保健室経営	○【養護第4】「学校経営の観点に立って」という文言は、職務の級から考えると「学校経営方針等をふまえ」という文言の変えた方が妥当であると考えます。	○【養護第4】「保健室経営計画を策定し」を「保健室経営計画を作成、実施し」に修正しました。（保健室経営計画作成の手引き 日本学校保健会 参照）
2	【養護教諭】保健教育	○【養護第3】「家庭や地域の実態に即して進める」ものは何か（保健教育か）。	○【養護第3】家庭や地域の実態に即して保健教育を進めます。
3	【栄養教諭】個別的な相談指導	○【栄養第3・4】連携にかかわる文中に「養護教諭」が加わったが、「養護教諭等」と書き改め、管理職や他の教職員も含まれるという意味を持たせるほうが妥当ではないか。	○【栄養第3・4】「健康課題」としていることから、養護教諭や医療機関等との連携で良いと考えます。（栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育 文部科学省 参照）